

# CSR

## 報告書

### 2019-2020

---

素材のチカラを  
未来のタカラに

|                     |  |
|---------------------|--|
| 戸田工業グループの経営理念とCSR方針 | 3  |
| 戸田工業グループの事業内容と歴史    | 4  |
| 身近な戸田工業グループの製品群     | 6  |
| 経営者ごあいさつ            | 8  |
| 特集① TDKとの協業スタート     | 9  |
| 特集② 環境ビジョン2033      | 10   |
| <b>-経営-</b>         | 12   |
| 1) コーポレート・ガバナンス     |    |
| 2) コンプライアンス         |  |
| <b>-業績と経営計画-</b>    | 14   |
| 1) 2018年度 事業の概況     |    |
| 2) 株主総会と決算事業報告会     |  |
| 3) 中期的な見通し          |  |
| <b>-品質-</b>         | 16   |
| 1) 製品品質の向上のために      |   |
| 2) 品質保証活動の指針        |  |
| 3) お客様からの問合せへの対応状況  |  |
| 4) 小集団活動            |  |
| 5) 現場を強くする人財の育成     |  |
| <b>-環境安全-</b>       | 18   |
| 1) 持続可能な調達          |  |
| 2) 環境負荷の低減          |  |
| 3) 職場の安全・衛生         |  |
| 4) リスク管理            |  |
| 5) 生物多様性への取組み       |  |
| <b>-社会-</b>         | 26   |
| 1) 人権の尊重            |  |
| 2) 社会や地域とのかかわり      |  |
| 3) 研修制度             |  |
| 4) 従業員インタビュー        |  |
| 5) クラブ活動            |  |
| 6) 次世代育成支援・女性活躍推進活動 |  |
| 組織図                 | 34   |
| 事業拠点                | 35   |

戸田工業グループでは、2014年度に経営理念、経営方針、行動指針を刷新いたしました。役員・従業員一同、日々これらの理念等に立ち返り、各自の役割・業務にあたっております。

## 経営理念

私たちグループは、酸化鉄で培った微粒子合成技術を深化させながら、永遠に生々発展します。誠実・信頼を基盤とし創造力と製造力を結集させ、魅力ある独創性に富んだ新素材およびソリューションを通じて、広く社会に貢献します。

## 経営方針

- ・設立100年を超えても発展し続け、社会に貢献できる「もの作り企業」としての経営基盤を確立します。
- ・Only1技術を磨き、付加価値の高い製品とソリューションを提供し続けます。
- ・グローバルで必要不可欠な存在となり、グループの企業価値を向上させます。
- ・従業員と家族の幸福を求め、ステークホルダーから常に信頼される存在となります。

## 行動指針

- ・お客様のニーズにお応えする製品とソリューションをスピーディーに提供します。
- ・製・技・販・管、全社一丸となって熱心に仕事に打ち込みます。
- ・誠実でフェアな企業市民として、高い倫理観を持って行動します。
- ・個々の品格を高め、誇りと希望と夢を持ち続けます。
- ・地域社会および地球環境との調和と共生に努めます。

# CSR方針

戸田工業グループは、将来への継続的で健全な発展のために、経営理念・経営方針に基づく経営を継続的に行うとともに、よりよき市民、よりよき企業市民として、社会的責任の実現が重要な役割であることを認識し、コンプライアンスの精神を土台として関係法令および社内の諸規程、規則を遵守し、企業トップ自らが率先垂範の上、社内に徹底するとともに、グループ企業や取引先に周知させます。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ち、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは関係を持ちません。

## CSR4つの指針

### ■投資家の皆様に向けて

創造的な技術に裏付けされた質の高い成長による成果の蓄積・提供、透明で健全なコーポレート・ガバナンス体制および有効な内部統制の整備・運用により、投資家の皆様の理解と共感を得る活動に努めます。

### ■お客様、取引先の皆様に向けて

お客様から見た価値観を共有し、独自に開発した技術力を武器とし、志を同じくする取引先業者と、よきパートナーシップで連携します。そして、誠心誠意、目標に向けて互恵の努力を続けます。

### ■社会に向けて

コンプライアンス精神に則り反社会的勢力との関係を断ち、安全と地球環境への配慮を何物にも優先させ、地域社会と連携し国際社会との協調を図りながら、持てる文化資本をベースに、グローバルレベルの素晴らしい生活文化を作ります。

### ■従業員に向けて

従業員一人ひとりの独創性と多様性が、私たちの財産です。その能力の限りない飛躍と活動を応援し、公正に評価します。そして従業員のゆとりと豊かさの充実に努め、ともに生活していくことを目指します。

# 戸田工業グループの事業内容

戸田工業は、酸化鉄の湿式合成から始まるナノテクノロジーをベースに事業展開しています。酸化鉄は鉄と酸素を主とした物質であり、元素の結合様式によって、色や硬さ、強度、磁性などの物理・化学特性が異なります。

戸田工業の湿式合成技術の特徴は、用途に応じて、求められる機能や特性に合わせて、粒子の特性を制御し、各種素材を自在に作り分けることができることです。湿式合成技術を基盤としたナノテクノロジーの蓄積は、戸田工業のコアコンピタンスとなっています。

酸化鉄を核とした専門知識・技術・ノウハウの集積は、お客様の抱える課題に新しい角度から光を当て、素材の視点からの解決法・ソリューションを見出しています。

近年では、ICタグやフェライトシートなど、素材を熟知した戸田工業だからこそできる電子部材の開発・製造を進め、高度化するお客様のニーズに応えています。また、酸化鉄への原点回帰として、各種の触媒や磁石材料、機能性顔料の開発・製造にもますます力を入れてまいります。

これからも、戸田工業グループ一丸となり、素材を通じて、情報・環境・エネルギーを支えるソリューションを提供してまいります。



戸田工業株式会社紹介ビデオ(4分30秒)を是非、ご覧下さい。

## 最先端技術であなたとともに。

### ■Device

#### 電子部品用材料事業

- 自動車モーター用磁石材
- 家電モーター用磁石材
- 各種センサー用磁石材
- 電子部品 (インダクタ、コンデンサ)

### ■EMC

#### 電磁対策材料事業

- スマートフォン製品用部品
- ウェアラブル製品用部品
- 電波吸収材

### ■Imaging

#### 電子印刷材料事業

- モノクロプリンタ用トナー材
- カラー複写機用キャリア
- プリンタ・複写機用磁石材

### ■Ecology

#### 環境機能材料事業

- 鉛フリー材料 (塩ビ安定剤、道路標示材)
- 燃焼触媒
- 汚染土壌改良剤

### ■Digital

#### デジタル記録材料事業

- コンピュータデジタル記録テープ用磁性材
- 磁気カード用磁性材

### ■Color

#### 顔料事業

- 自動車用、事務機器用顔料
- 建築・建材用顔料
- 船底用防錆顔料

### ■Battery

#### 電池材料事業

- 電気自動車用電池材料

# 戸田工業グループの歴史

創業 1823年

1907年 広島市安佐北区に工場移転 (広島工場)

1933年 広島市西区横川新町に戸田工業株式会社設立

1936年 広島市中区舟入南に本社・工場移転

1953年 東京営業所、大阪営業所を新設

1953年 硫酸鉄を焼成して酸化鉄を製造する過程で、亜硫酸ガスが発生、大きな問題となる

1953年 酸化鉄を水溶液から化学反応によって合成する湿式合成法の開発により、公害問題を克服

1959年 山口県山陽小野田市に小野田工場を新設

1965年 酸化鉄を水溶液から化学反応によって合成する湿式合成法の開発により、公害問題を克服

1971年 広島市西区横川新町に本社移転

1975年 舟入工場を研究・開発専用事業所とする。

1973年 小野田工場にオーディオ・ビデオテープ用磁性粉末生産設備を新設

1969年 小野田工場にオーディオ・ビデオテープ用磁性粉末生産設備を新設

1973年 小野田工場に湿式法による着色顔料工場新設

1953年 京都大学との共同研究を開始。ベンガラ製造が伝統的な“技能”から“技術”として位置づけられる

1953年 広島工場にフェライト材料の生産工場を新設

鉄鋼製品の製造プロセスから副成する硫酸鉄や塩化鉄を原料として利用

産業廃棄物の削減、資源の有効利用に貢献

業界初！酸化鉄の湿式合成法の開発

1988年 小野田工場の電子印刷用着色材料の専用生産設備を新設

1989年 小野田工場にメタルテープ用磁性粉末製造設備を新設

1999年 小野田工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設

2003年 小野田工場にリチウムイオン二次電池正極材料生産設備を新設

2004年 小野田工場にチタン酸バリウムの製造設備を新設

トナー材料

コンピュータデジタル記録テープ

湿式合成法を鉄以外の材料へ展開

ハイドロタルサイト

チタン酸バリウム使用例

1984年 大竹工場にてフェライト材料の生産開始

1994年 ダイオキシン抑制燃焼触媒の開発

1996年 大竹工場にカラー用キャリア製造工程を新設

2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設

2011年 大竹工場にスマートフォン用NFCフェライトシート生産設備を新設

マグネット、磁石

磁気切符、磁気カード

ダイオキシン抑制触媒の使用例 (ゴミ袋、緩衝材)

カラー用キャリア

金属対応ICタグ

フェライトシート

1953年 酸化鉄を焼成して酸化鉄を製造する過程で、亜硫酸ガスが発生、大きな問題となる

1953年 酸化鉄を水溶液から化学反応によって合成する湿式合成法の開発により、公害問題を克服

1953年 京都大学との共同研究を開始。ベンガラ製造が伝統的な“技能”から“技術”として位置づけられる

1953年 広島工場にフェライト材料の生産工場を新設

鉄鋼製品の製造プロセスから副成する硫酸鉄や塩化鉄を原料として利用

産業廃棄物の削減、資源の有効利用に貢献

業界初！酸化鉄の湿式合成法の開発

1988年 小野田工場の電子印刷用着色材料の専用生産設備を新設

1989年 小野田工場にメタルテープ用磁性粉末製造設備を新設

1999年 小野田工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設

2003年 小野田工場にリチウムイオン二次電池正極材料生産設備を新設

2004年 小野田工場にチタン酸バリウムの製造設備を新設

トナー材料

コンピュータデジタル記録テープ

湿式合成法を鉄以外の材料へ展開

ハイドロタルサイト

チタン酸バリウム使用例

1984年 大竹工場にてフェライト材料の生産開始

1994年 ダイオキシン抑制燃焼触媒の開発

1996年 大竹工場にカラー用キャリア製造工程を新設

2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設

2011年 大竹工場にスマートフォン用NFCフェライトシート生産設備を新設

マグネット、磁石

磁気切符、磁気カード

ダイオキシン抑制触媒の使用例 (ゴミ袋、緩衝材)

カラー用キャリア

金属対応ICタグ

フェライトシート

1983年 東京証券取引所一部上場

1983年 広島市中区舟入南に創造センターを新設

1984年 広島県大竹市に大竹工場を新設

1991年 大竹工場内に創造本部大竹を新設

海外進出がスタート！

1994年 「戸田工業ヨーロッパ GmbH」を設立

1996年 「戸田アメリカ Incorporated」を設立

1997年 「戸田ピグメント(株)」設立

2000年 広島市中区舟入南に本社移転

2003年 大竹市に本社移転

中国浙江省に全額出資の「戸田磁鉄材料(浙江)有限公司」を設立

2004年 中国浙江省に「浙江東磁戸田磁業有限公司」を設立

2006年 韓国に「戸田フェライトコリアCO.,LTD.」を設立

2007年 中国天津市に「戸田表格磁磁性材料(天津)有限公司」を設立

カナダに「戸田アドバンスドマテリアルズInc.」を設立

2008年 「東京色材工業(株)」の株式を100%取得

韓国に「戸田イース CORPORAION」を設立

2011年 中国浙江省の「戸田聯合美業(浙江)有限公司」を連結子会社化

2012年 中国広東省に「戸田磁鉄(深圳)有限公司」を設立

2014年 広島市に本社移転

2015年 「BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社」を設立

2016年 「戸田工業アジア(タイランド) CO., Ltd」を設立

「戸田ファインテック(株)」の株式を100%取得

2019年 「戸田磁鉄材料(浙江)有限公司」移転、増産対応

1980

1990

2000

2010

トナー材料

コンピュータデジタル記録テープ

湿式合成法を鉄以外の材料へ展開

ハイドロタルサイト

チタン酸バリウム使用例

1984年 大竹工場にてフェライト材料の生産開始

1994年 ダイオキシン抑制燃焼触媒の開発

1996年 大竹工場にカラー用キャリア製造工程を新設

2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設

2011年 大竹工場にスマートフォン用NFCフェライトシート生産設備を新設

マグネット、磁石

磁気切符、磁気カード

ダイオキシン抑制触媒の使用例 (ゴミ袋、緩衝材)

カラー用キャリア

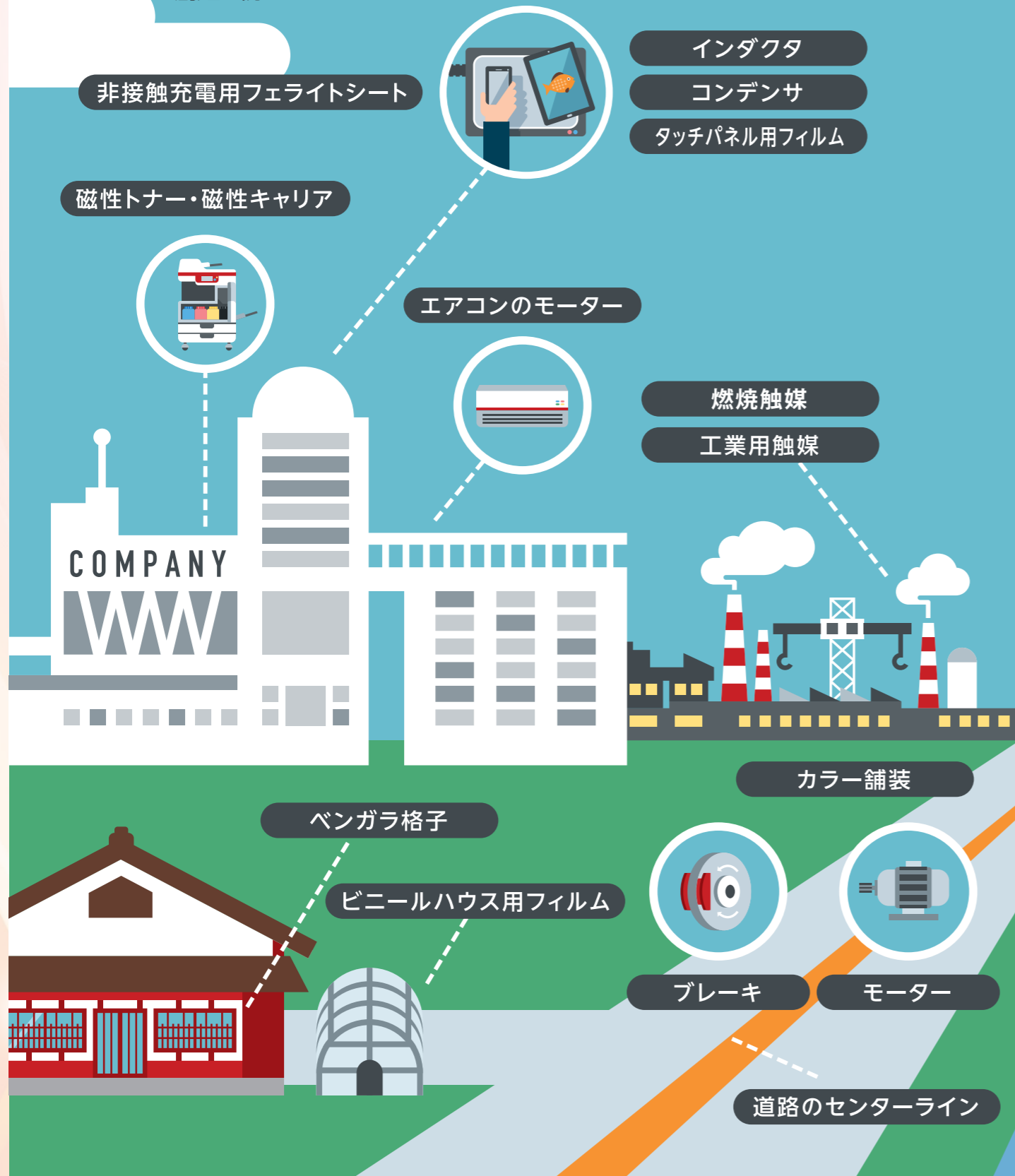
金属対応ICタグ

フェライトシート

経営理念とCSR方針  
事業内容と歴史  
身近な製品群  
「ごあいさつ」特集①  
特集②  
経営  
業績と経営計画  
品質  
環境安全  
社会  
組織図・事業拠点

# 身近な戸田工業グループの製品群

化学製品は私たちの身の回りで様々な形で使われています。  
 戸田工業グループの素材も自動車、家電製品、情報機器等の小型化、軽量化、高性能化に貢献しています。  
 【素材のチカラを未来のタカラに】を合言葉に、最先端の素材力で新たな価値を創造し続けます。





戸田工業グループは、磁器の絵付けやベンガラ格子などで知られる酸化鉄着色顔料の製造会社として江戸時代末期の1823年に創業した化学素材メーカーです。現在では、自動車や通信機器分野で、高性能モーター用の磁石材料や非接触充電用フェライトシート、ICタグなど、高度な電子化に必須の部品や材料を提供しています。

創業200年の節目まであと数年となりました。戸田工業グループを取り巻く事業環境は常に変化しておりますが、グループの役員・従業員が一丸となり、これまで酸化鉄で培ってきた無機材料の微粒子合成技術を駆使して、時代の要請に着実に対応してまいります。

CSRの活動としては、SDGs\*の理念に則り、人類の豊かな発展のために一企業として果たすべき役割を常に意識した取り組みを続けております。製造活動における環境負荷の低減もさることながら、当社が作り出す製品そのものが地球や社会に配慮した設計、デザイン、用途であることを自負し、グローバルに展開していきたいと考えております。

今後とも、ステークホルダーの皆様とともに生々発展できるよう邁進してまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

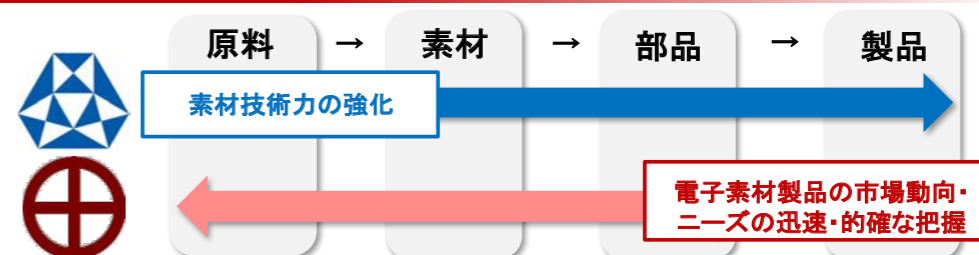
たからぎ  
代表取締役社長 寶來 茂

\*SDGs: "Sustainable Development Goals"。2015年9月に国連サミットで採択された、国際社会が2016年から2030年までに達成すべき、経済・社会・環境に関する17の開発目標。

2019年1月10日より、戸田工業グループはTDK株式会社(以下、「TDK」)との資本業務提携を開始しました。TDKとは既に一部の事業で協業していましたが、今後は、より関係を密にし、電子素材事業を中心とした新製品の開発、国内外における原材料の調達、グローバルなネットワークを活用したマーケティング、ロジスティクス等で協働することで、戸田工業グループの事業をより一層拡大させていきます。

事業面はもちろん、2019年6月25日に開催した株主総会では、TDKより松岡大氏、生嶋太郎氏の2名の社外取締役が選任されました。戸田工業のコーポレート・ガバナンスの面でも様々な助言をいただきながら、より効率的で透明性のある経営を進めてまいります。

TDK+戸田工業 協業の狙い



協業の期待効果

- 1) 関連ビジネスの相互補完  
⇒ 調達、製造、販売における相互優位性利用による競争力確保
- 2) 素材技術力の強化・拡充  
⇒ 異種技術交流による、次世代製品創出
- 3) 開発スピードの向上  
⇒ 原料から製品への一貫した共同開発・製品化による開発期間短縮



TDK石黒社長(左)と寶來社長

# 戸田工業グループ 環境ビジョン2033



戸田工業は、2033年に会社設立100周年を迎えます。この記念すべき節目のときを目指し、今後戸田工業グループで取り組むべき課題や体制をまとめた「環境ビジョン2033」を、CSR・環境安全部と環境委員会が主体となって策定しました。

環境ビジョン2033のキーワードは、「持続可能性」です。会社が持続することはもちろん、もっと視野を広げて、地球が経済、環境、社会の問題を解決しながら持続していくことをイメージしました。これらのビジョンをもとに、具体的な目標を定め、これらをひとつひとつクリアすることを経営課題としていきます。

## 経営者コミットメント

世界では、地球温暖化による異常気象、環境汚染、資源枯渇、国際紛争、貧富の格差拡大、差別など深刻な問題が発生しています。これらの問題解決のため国連サミットでSDGs採択、COP21パリ協定採択、GPIF国連責任投資原則(PRI)署名など様々な取組みが行われ、持続可能な社会の実現に向け大きく歩み始めています。

当社グループは、環境問題について、化学メーカーとして存続していくために避けては通れない重要な課題ととらえ、古くより環境負荷低減に取り組んでまいりました。例えば、環境負荷の大きい乾式合成法から無公害な湿式合成法への生産技術転換、鋼板メーカー廃液や自社工場廃棄物の再資源化などです。

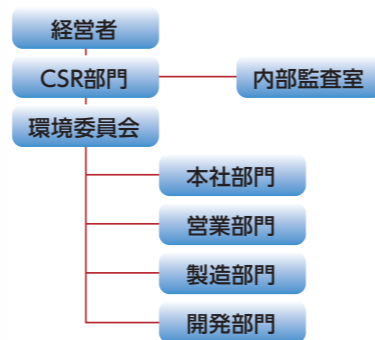
現在、CSR方針、CSR4つの指針、環境方針を定め、持続可能な社会に貢献できる活動を推し進めています。2033年に会社設立100年の節目を迎えるにあたり、2033年ありたき姿を描き、ESG取組みの中期ビジョンとして「環境ビジョン2033」を策定しました。

この活動を通して、ステークホルダーの皆様とともにSDGs、地球環境の保全、保護の取組みに努めてまいります。

代表取締役社長 **たからぎ 寶來 茂**

## マネジメント体制

経営者直轄のCSR部門に、全部門から選出された環境委員からなる環境委員会を設置し、次頁でご紹介する環境経営5本柱の活動を推進します。活動内容は、本CSR報告書、事業所の環境活動報告書、ホームページ等で公開します。



弊社ホームページで「環境ビジョン2033」を公開しています。



## 環境ビジョン2033策定にあたり

環境ビジョン2033の礎とすべきは「2033年に戸田工業としてどうありたいか」であると考えました。そこで、役員、従業員を対象にサステナビリティ（持続可能性）教育を実施し、この、「2033年ありたき姿」を討議しました。その中で出てきた代表的な意見をご紹介します。

- ・酸化鉄のありとあらゆる機能、用途を深化し、確固とした技術、地位を維持し続ける会社。
- ・都市鉱山からのレアメタルリサイクルに貢献できる会社。
- ・廃棄物が出ないような方法で製造する会社。
- ・BCPが確保できている会社。
- ・地域社会と共存共栄できる会社。
- ・自然、生態系、社会と調和のとれた持続可能な原料を用いた製品を販売し、世界的な認証を取得し、安心して使用される材料を提供できる会社。

### 環境経営5本柱

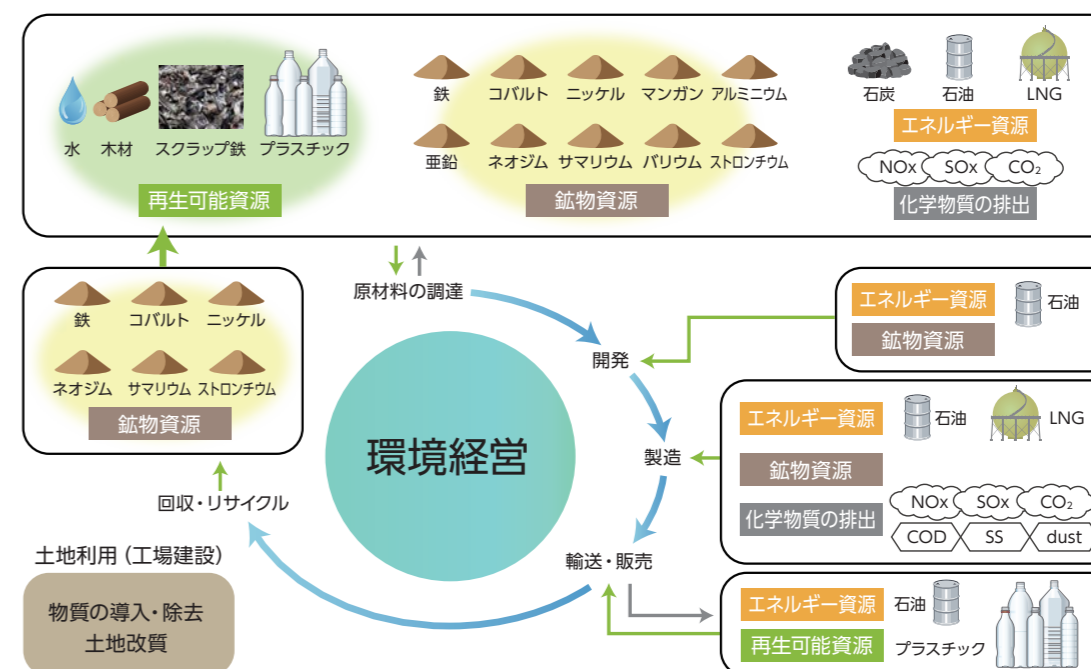
- (1) 生物多様性への取組み
- (2) 温室効果ガスの削減
- (3) 環境調和型商品、技術の提供
- (4) 循環型社会形成への取組み
- (5) 産業廃棄物の有効活用



### 環境経営5本柱



戸田工業グループで定めた「生物多様性行動指針」に従い、環境保全、社会生活を通じて生物多様性を推進するとともに、原料の調達、製品の開発、製造、輸送、販売、リサイクル、廃棄などあらゆる段階（ゆりかごから墓場まで）の環境貢献、環境負荷低減に取り組めます。

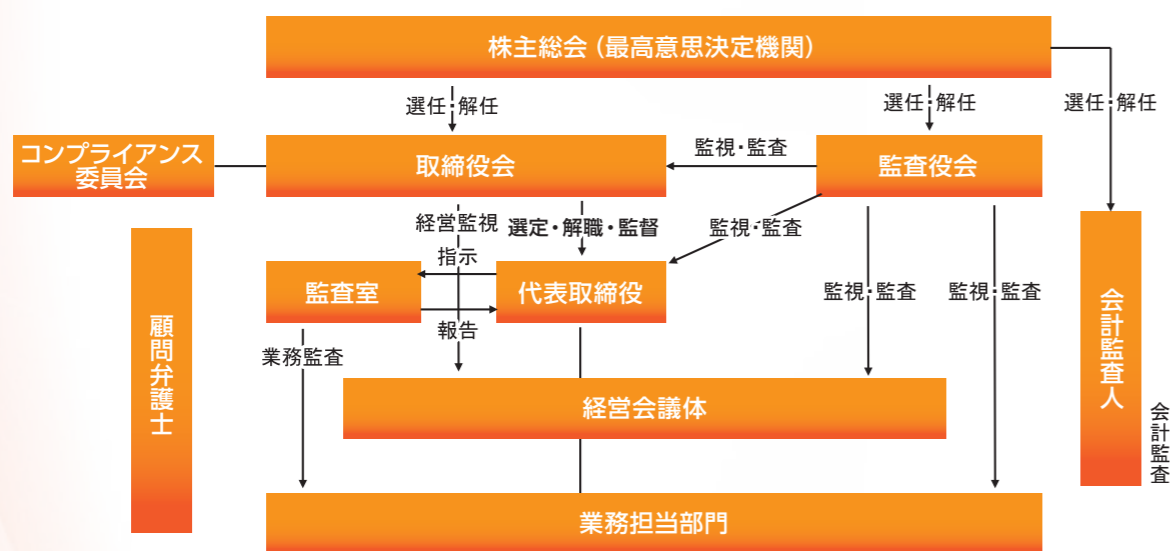


## 1) コーポレート・ガバナンス

### <取組み体制>

戸田工業は、株主総会を最高意思決定機関とし、重要な業務執行に関する意思決定機関である取締役会および業務執行を監督する機関である監査役会を設置するガバナンス体制を構築しています。

取締役会は、月1回の定時取締役会のみならず、業務上の必要に応じて臨時取締役会を開催し、迅速かつ確かな意思決定を実現しています。また、3名の社外取締役を活用することにより、取締役による相互の職務執行の監視、監督をより実効的なものにしていきます。さらに、独立性の高い社外監査役3名を含む監査役会による取締役会、その他の重要な会議に対する監査の実施により、業務執行に対する客観性および中立性の高い監視、監督体制を確保しています。



コーポレート・ガバナンス体制図

### <社外取締役からのコメント>

2018年6月の株主総会で独立社外取締役として選任されました。社外取締役としての責務を果たすため、定時取締役会に先立って開催される社外役員向けの事前説明会に必ず出席するほか、毎月開催される経営や開発の重点テーマに関する会議にも出席することで、当社への理解を深めています。

私の専門分野である技術においては、開発のリーダーの皆さんと直接会話することで、他社のベンチマークの重要性やロードマップの活用方法など、当社の技術を将来の事業に結びつけることができるような助言をしています。

コーポレートガバナンス・コードの改訂などにより、昨今では社外取締役の役割への期待がますます高まっています。私自身も当社の関係者とともに勉強しながら、この高まる期待に応えられるよう尽力してまいります。



社外取締役 水野隆文

## 2) コンプライアンス

### <情報セキュリティの強化>

情報漏洩等のリスクが高まっている近年の状況に鑑み、戸田工業グループでは、情報セキュリティ上のリスクへの技術的な対策を講じるとともに、当社内の情報セキュリティに関連する規程を大幅に改定しました。

現在、情報システムは、業務の運営上必要不可欠なものとなっていますが、情報システムの停止または情報漏洩などのリスクを合わせもっています。当社においても、情報システムが業務運営の根幹となっていること、株主の皆様、お客様の重要な情報を取り扱っていることなどから、情報セキュリティ対策は、早急に対応すべき重要な責務であるととらえ、下記のような具体的な対策を打ち始めているところです。

情報セキュリティの技術的対策としては、社内のグループウェアを刷新し、第三者による社内ネットワークへの侵入の防止をより強固なものとししました。

技術的対策に合わせて、社内規程において、情報セキュリティに関する基本的な方針と、情報セキュリティ上のリスクを最小限とするための具体的な行為や禁止事項等を細かく明文化しました。また、万が一情報セキュリティ上の事故が発生した場合に、その被害を最小限に抑え、再発を防止することのできる対策を定めました。

これらに加え、従来から継続的に実施している当社グループおよび協力会社の従業員に対する情報セキュリティ教育により、当社全体の情報セキュリティ意識の向上を図っています。

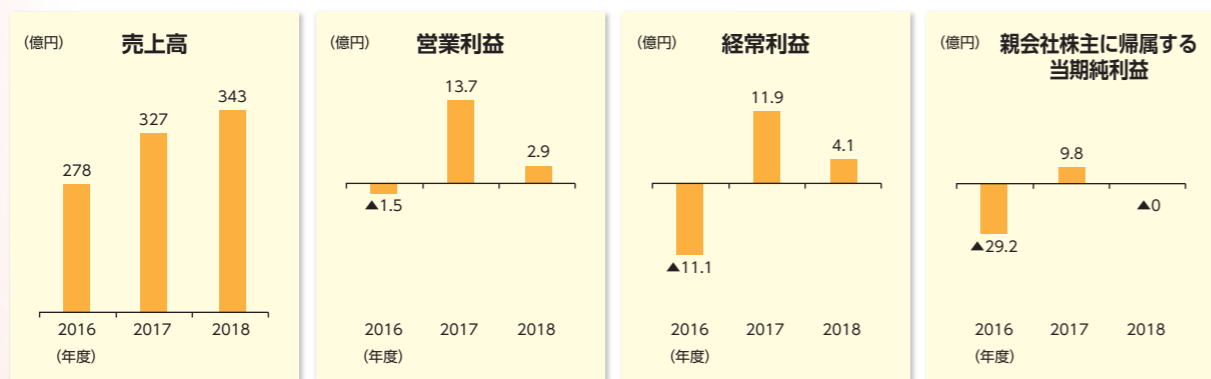
当社は、今後も、情報システムがお客様への製品の供給に重要な役割を果たしていること、および、株主の皆様やお客様の重要な情報を取り扱っているという責任を認識し、ますます多様化し、高まることが予想される情報セキュリティ上のリスクに対応していきます。



### 1) 2018年度 事業の概況 (2018年4月1日~2019年3月31日)

戸田工業グループにおきましては、スマホ向け非接触充電用フェライトシートの売上の減少および世界経済減速の影響があったものの、基幹事業である磁石材料および着色材料が堅調に推移し、またリチウムイオン二次電池市場の拡大に伴う電池関連材料および堺化学工業(株)との協業による塩ビ安定剤向け材料の売上が増加したことから、売上高は34,354百万円(前期比4.8%増)となりました。

利益面においては、継続的な原価低減活動、諸経費の削減を推し進めたものの、原材料価格高騰の影響が大きく、営業利益は299百万円(前期比78.1%減)となりました。また、営業外収支については、持分法適用関連会社の収益改善に取り組んだ結果、持分法による投資利益46百万円を計上し、経常利益は412百万円(前期比65.5%減)、親会社株主に帰属する当期純損失0百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純利益981百万円)となりました。



### 2) 株主総会と決算事業報告会

戸田工業の第86期定時株主総会が2019年6月25日に開催されました。毎年広島市で開催している株主総会ですが、遠方の株主様も足を運んでくださり、今期も多くの株主の皆様にご出席いただきました。株主総会は、株主の皆様と会社との貴重なコミュニケーションの場でもあります。戸田工業では、株主総会の議事がすべて終了した後、毎回社長による経営近況報告会を開催し、株主の皆様へ戸田工業グループへのご理解を深めていただくよう努めております。また、株主総会の会場に製品の展示コーナーを設け、戸田工業グループの製品が身の回りのものにどのように使われているのかを紹介するほか、技術者による製品の説明も実施しております。

また、戸田工業では、機関投資家、アナリストや経済記者等を対象とした決算事業報告会も年に2回開催しております。ここでも、戸田工業グループの今後の方向性などをご説明し、機関投資家の皆様等とコミュニケーションさせていただいております。

これらに加え、今後は個人の株主様向けのIR説明会の開催も視野に入れ、投資家の皆様とのコミュニケーションをより活発にしていきます。



決算事業報告会の様子

### 3) 中期的な見通し

#### ① 社会的な課題の解決

戸田工業グループでは、素材メーカーとしての事業活動を通じて社会的な課題の解決を支援することで、ますますの発展を目指します。

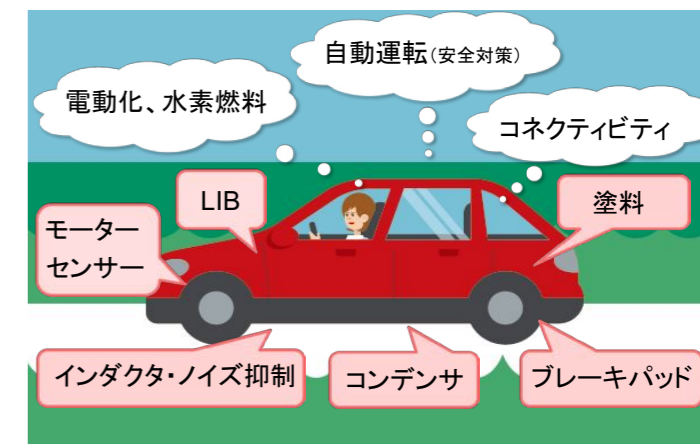
戸田工業グループでは、多くの製品で再生原料を利用します。これは、新たな採掘をすることなく、他社で廃棄されるものを有効に活用するということです。また、戸田工業の製品を用いることで、燃焼効率を上げたり、製品の寿命を延ばしたりすることができます。これらは、まさに事業活動を通じた社会の課題の解決であることを自負し、今後も社会のニーズを積極的につかみ、これをステークホルダーを意識しながら解決することへの貢献に注力していきます。

#### 事業活動を通じて、社会的な課題解決を支援する



#### ② 次世代自動車への展開

また、戸田工業グループ全体で、次世代自動車が今後躍進することに備えた製品の開発、拡販活動を進めていきます。次世代自動車に使われる戸田工業グループ製品としては、リチウムイオン二次電池用材料をはじめ、モーター・センサー用磁石材料、インダクタ・ノイズ抑制用軟磁性材料、コンデンサ用チタン酸バリウム、ブレーキパッド用摩擦材料、塗料用顔料などが挙げられますが、今後はこのフィールドをより拡大させ、戸田工業グループの材料が次世代自動車に必須となるよう、多くの材料を展開させていきたいと思っております。



#### ③ 経営目標数値

そして、戸田工業グループの5つの事業フィールドである自動車、家電・通信機器、塗料、複写機、環境分野で、2021年度には売上420億円、経常利益30億円という目標を掲げ、効率的な生産活動と積極的な拡販活動を継続してまいります。





### 1) 製品品質の向上のために

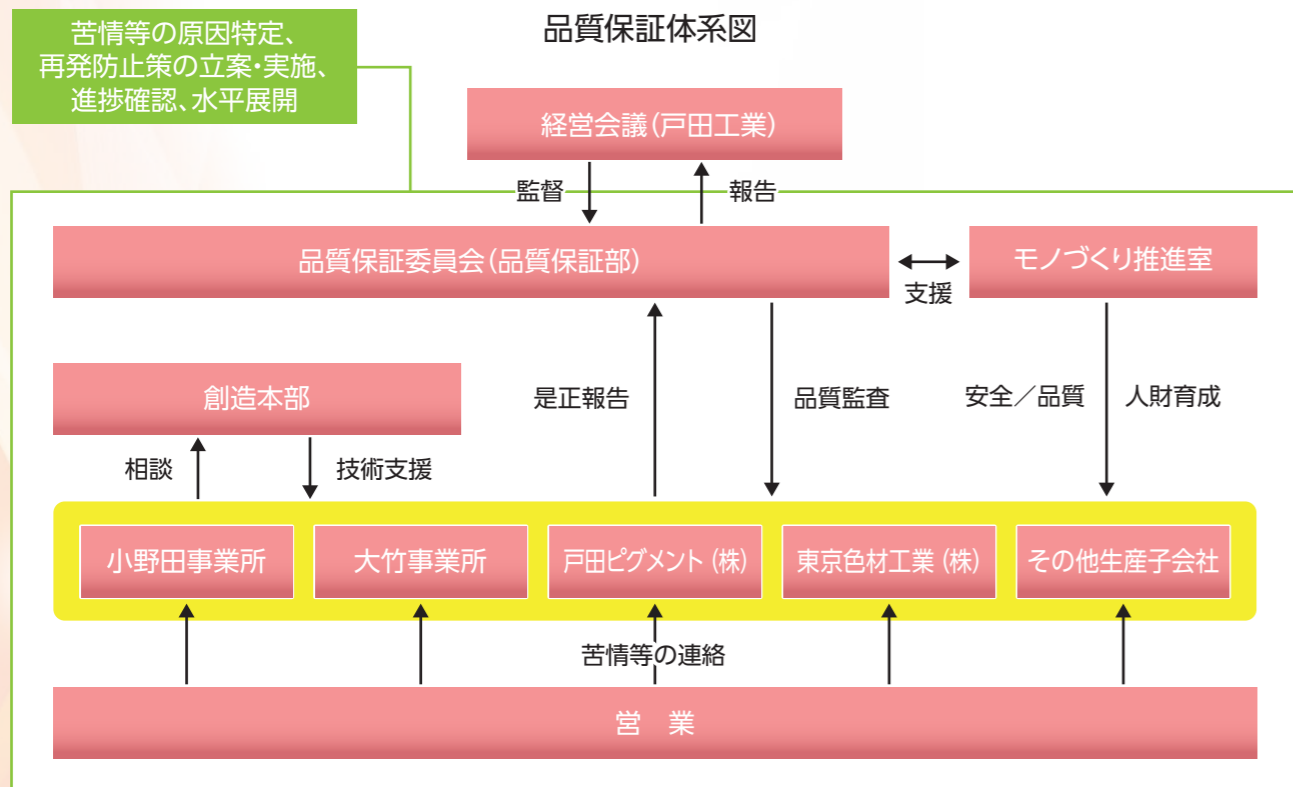
戸田工業グループでは、「継続的改善活動を展開し、顧客の信頼と満足を得る品質を提供する」という品質方針を定め、以下の品質保証活動を推進しています。推進主体である品質保証部は、これらの品質保証活動を中立的な立場でより実効的に推進するため、営業・開発・製造から独立した、社長直轄の組織となっています。

品質保証部は品質保証委員会を主催し、戸田工業グループ各事業所の品質保証部門と情報を共有し、品質問題を全社で解決する体制を構築しております。戸田工業グループの製造部門に対する品質監査を行うほか、営業部門に届けられるお客様からの苦情・クレーム等に対する原因特定、再発防止の立案・実施、検証および水平展開を現場目線で行っています。

2019年度は、「モノづくりを通じた人づくり」の観点から、「人財開発部」に設置した「モノづくり推進室」と連携して、人財育成に取り組み、品質保証活動を深化させていきます。

### 2) 品質保証活動の指針

1. ISO9001シリーズの要求事項の遵守を確認するとともに、品質保証システムのレベルアップを目的とした品質監査を実施します。
2. 法規制およびその他の要求事項の遵守状況を確認します。
3. 戸田工業グループの製品の品質向上のため、品質の分析、関係部門に対する改善指導および定期的な品質に関する検討会議（品質保証委員会）を行うことにより、総合的な品質改善を推進します。
4. 海外事業会社の品質保証体制強化を支援します。
5. 現場力を高めるための、人財教育を支援します。

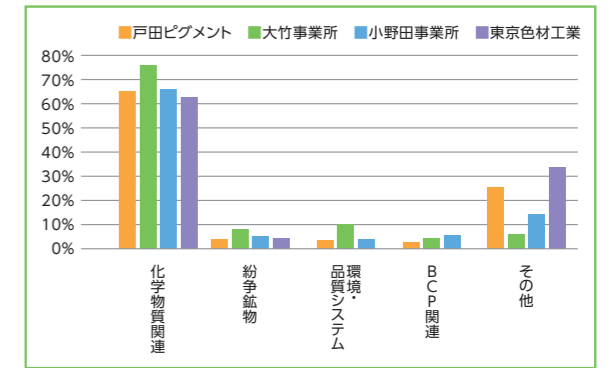


### 3) お客様からの問合せへの対応状況

我々戸田工業グループは、製品品質の維持向上を目的として、製品やCSR等に関するお客様からの問合せに対して、迅速かつ丁寧にご回答することを心がけています。

その中で洗い出された課題に対しては、担当する部署と協力し、解決に向けて日夜取り組んでいます。

2018年度も右図のとおり化学物質関連のお問合せを中心に、多数のお問合せに真摯に対応させていただきました。



事業所別お客様お問合せ内容内訳

### 4) 小集団活動

戸田工業では各事業所において生産現場のあるべき姿を「安全なくして効率なし。品質なくして信頼なし。変革(改善)なくして発展なし。」のスローガンのもとで意識付けし、課題の達成に向け協力会社と協力して小集団活動を積極的に展開しております。

活動テーマの範囲を生産性改善・品質向上はもとより環境保全・安全維持にも広げ、この活動を通して各人の意識・知識を向上させ、従業員同士の信頼関係を醸成するとともに、発表会を通じて異なる職場間のノウハウを共有することにつながっています。



大竹事業所小集団活動発表会の様子

### 5) 現場を強くする人財の育成

モノづくり推進室では、「モノづくりは人づくり」という考え方にに基づき、自ら職場の問題点に気づき、能動的に改善できる人財の育成を推進しています。

すべての活動のベースとなる「5S」を心がける風土を醸成する「5S特区活動」は、2016年度から継続的に実施しています。2018年度は、この活動プロセスと成果を小集団活動の発表会で紹介し、5S特区以外の職場でも共有化しました。

さらに、自職場で気づいた問題・課題を「QC的ものの見方・考え方」で改善できる人財を育成する「TQM (Total Quality Management)」の精神に重点を置いて活動しています。2018年度は、協力会社を含めた各事業所の従業員へ、改善の手法の1つである「QC7つ道具」研修を現場レベルで使える実践形式の勉強会として開催しました。

2019年度も、業務改善の基礎となる5SやTQMの思想を反映した人づくりに取り組んでまいります。特に、小野田事業所では、既設の体感型「安全道場」に加え、安全、品質、技術、設備保全、5Sなどを、講義だけでなく、実践形式で楽しく学べる場としての「モノづくり道場」を2020年度開設に向けて準備しています。

## 1) 持続可能な調達

### ①方針

戸田工業グループは、国連グローバルコンパクトの定める「人権」、「労働」、「環境」、「腐敗防止」に関して世界的価値観を共有し、「調達方針」、「指針」、「紛争鉱物に関する基本方針」（ホームページで公開中）に従い、取引先と持続可能性を高めることにより、事業競争力、企業価値を向上させ、社会への貢献を図ってまいります。

#### 「指針」

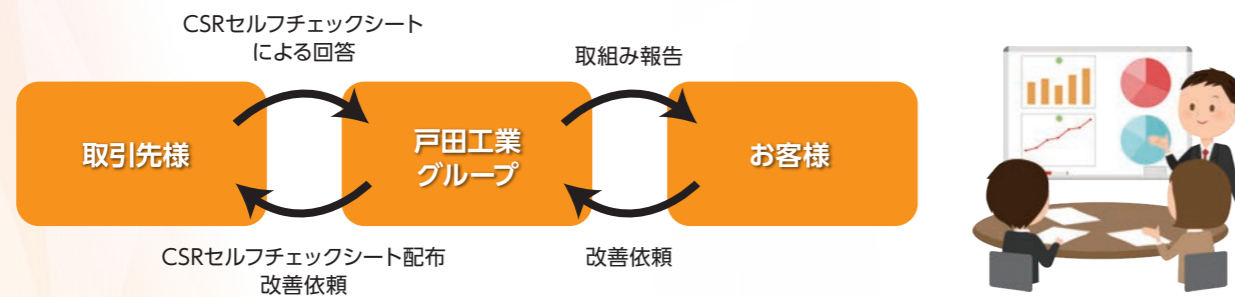
1. 法令の遵守：調達に関わるすべての活動において法令を遵守し、公正な取引を行います。
2. CSR：よりよき市民としての責任を認識し、自らCSR活動を行うと共に、志を同じくする取引先様と連携し、社会貢献を果たしていきます。
3. グリーン調達：購買取引は、資源保護ならびに環境保全に留意した調達を行います。
4. 公正公平な取引：購買取引は、広く取引市場を開放し、国内外を問わず公平かつ公正な基準にもとづいて行います。
5. 取引先選定：取引先の品質、価格、納期等を総合的に評価し、また原価低減活動推進、新材料、新技術の提供可能性なども考慮した経済合理性に基づく選定を行います。
6. 購買取引は、常に堅実性を旨とし、投機的な取引は行いません。
7. 購買取引において提供される資料や情報は、厳格に管理いたします。

### ②CSR調達

購買規程で取引先様調査を義務付けています。取引先様調査は、品質保証、供給能力、BCP/BCM、環境保全、人権、法令遵守、社会貢献など様々な側面から取引先様よりご回答をいただき、価値観を共有し、その取り組みを通して、お客様、株主の皆様、社会の信頼、期待、安心を得ることを目的としています。

2018年度に『取引先様調査表』の見直しを行ない、新たに『CSRセルフチェックシート』を策定しました。

『CSRセルフチェックシート』は、従来よりチェック項目を充実させています。主要取引先様には定期的に『CSRセルフチェックシート』で回答をいただき、PDCAサイクルを回しながら、サプライチェーンでの持続可能な調達を推進します。



### ③グリーン調達

グリーン購入法の特典調達品目は、2001年度に14分野101品目でスタートし、2018年度には21分野275品目となりました（2018年2月閣議決定）。国が公開している「グリーン購入の調達者の手引き（2018年2月）」を参考にし、化学物質管理、省エネルギー、省資源、リサイクル、梱包材、再生・分解・処理の容易性、生態系への影響などを考慮し、環境負荷の低減により配慮されている製品・サービスを調達しています。

【対象商品】紙類、文具類、家電製品、オフィス機器、温水器、照明、作業服、エアコンディショナー、消火器

参考となる環境ラベル等



サプライチェーンの皆様と連携し、持続可能な調達を推進します。

## 2) 環境負荷の低減

### ①環境基本方針

戸田工業グループは、ISO14000シリーズによる環境管理を行い、環境保全は我々地球市民に課せられた使命と認識するのみならず、環境保全活動と経営活動を同軸であると考え、環境ビジョン2033を策定し、自ら責任を持ち、グループをあげてその活動に取り組みます。

#### 具体的な行動規範

##### (1)高い環境保全目標の設定と実現

役員および従業員は、法規制の遵守はもとより、自らの責任において、社会の期待を先取りした高い目標を環境ビジョン2033として設定し、その実現を通じて経済価値の創出に努める。

##### (2)革新的な環境技術開発の推進

役員および従業員は、顧客価値を創造し、広く社会にも活用される革新的な環境技術開発を進め、環境調和型製品の開発を推進する。

##### (3)全員参加での継続的改善

役員および従業員は、すべての事業活動において環境への影響を把握し、全員参加で汚染防止や、エネルギーおよび資源の有効活用について継続的改善を行う。

##### (4)環境に配慮した商品サービスの提供

役員および従業員は、商品とサービスの提供にあたっては、調達方針・生産から販売・物流・使用・リサイクル・廃棄に至るすべての段階における環境負荷の低減に努め、循環型社会の形成に取り組む。

##### (5)意識の向上と責任ある環境保全活動の推進

役員および従業員は、一人ひとりが広く社会に目を向け、積極的な学習を通して意識の向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を進め、生物多様性の保全に向けた取り組みを進める。

##### (6)持続可能な社会の実現への貢献

役員および従業員は、環境保全活動への参画・支援によって、持続可能な社会の実現に貢献する。

##### (7)コミュニケーションを通じた社会の信頼の獲得

役員および従業員は、ステークホルダーと連携した環境保全活動を展開し、積極的なコミュニケーションを通して社会の信頼を得る。

### ②マネジメントシステムの導入状況

戸田工業グループでは、以下のマネジメントシステムを認証取得し、事業活動におけるPDCAサイクルを回しています。

| ISO9001<br>ISO14001<br>OHSAS18001 | ISO9001<br>ISO14001     | ISO9001                        |
|-----------------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| 小野田事業所<br>大竹事業所                   | 戸田ピグメント(株)              | 戸田磁鉄(深圳)有限公司<br>大竹創造センター:商品開発G |
|                                   | 戸田フェライトコリアCO., LTD.     |                                |
|                                   | 戸田イスCORPORATION         | ISO14001                       |
|                                   | 戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司      |                                |
|                                   | 戸田塑磁材料(浙江)有限公司          | 大竹創造センター                       |
|                                   | 浙江東磁戸田磁業有限公司            |                                |
|                                   | 浙江聯合顔料有限公司              |                                |
|                                   | 戸田アメリカIncorporated      |                                |
|                                   | 戸田工業アジア(タイランド)Co., Ltd. |                                |

## ③温暖化対策

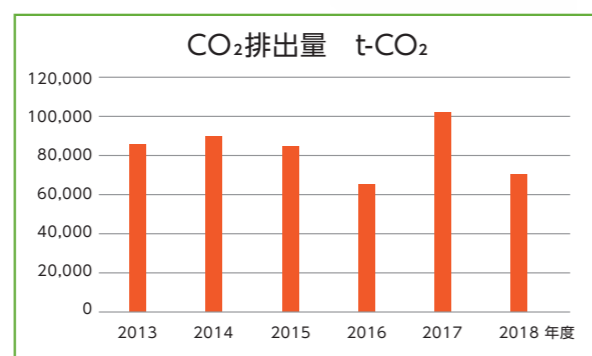
戸田工業グループは、社長直轄のCSR・環境安全部が統括する環境委員会（国内グループ会社で構成）で温室効果ガスの削減を推進しています。

環境ビジョン2033では、2013年対比で2033年までに以下を達成することを目標に掲げています。

- エネルギー原単位 20%削減
- 再生可能エネルギー 10%導入
- GHG（温室効果ガス）排出量 30%削減
- 輸送、通勤時のCO<sub>2</sub>排出量 30%削減

事業所の生産部門では生産性改善、設備部門では省エネ性能に優れた機器への更新、開発部門では生産性に優れた製造方法の開発等を行っています。また全従業員を対象として省エネ提案コンテストを開催し優れた提案に対し賞金、表彰を授与しています。2017年度は新規事業が立ち上がり、CO<sub>2</sub>排出量が一時的に増加しましたが、2018年は取組み成果があらわれ改善されています。

戸田工業グループ全体として、温室効果ガスの削減を推進します。



戸田工業における省エネ法定定期報告より

## ④産業廃棄物の有効活用

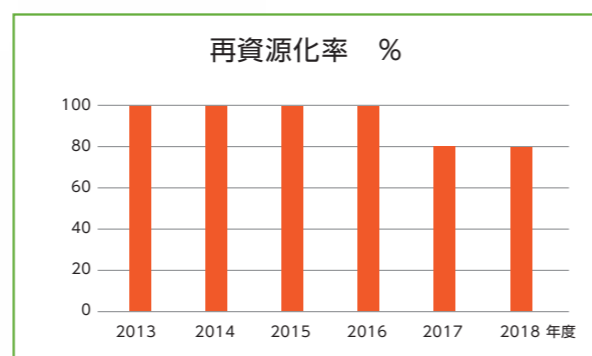
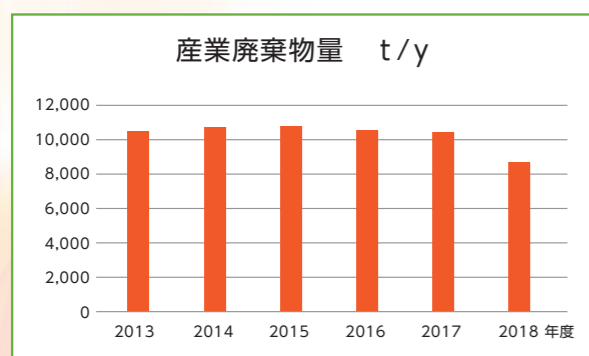
戸田工業グループでは、産業廃棄物の再資源化や再利用等の有効活用により、廃棄物最終処分（埋め立て処分）量ゼロ（ゼロ・エミッション）を目標とした活動を進めています。

環境ビジョン2033では、2033年までに以下を達成することを目標に掲げています。

- 産業廃棄物量 30%削減（2013年対比）
- 再資源化率 100%

2016年度までは、小野田、大竹事業所、戸田ピグメントの合算での再資源化率99.9%以上を維持してまいりました。2017年度以降、小野田事業所での増産に伴い発生汚泥の組成、物性が変化したことと再資源化処理業者の受入量が減少したことにより、再資源化率は80%に低下しました。

環境ビジョン2033の目標達成に向け、汚泥発生量の削減、汚泥物性改善、用途開発等を進めていきます。



## ⑤環境調和型の商品、技術の開発

日本国政府は、GHG排出量を2013年対比で2050年までに80%削減することを目標に掲げており、これを達成するためには各産業界でのイノベーションと業界の枠を超えた連携取組みが必要となります。

戸田工業グループでは【素材のチカラを未来のタカラに】を合言葉に、最先端の素材力で、地球環境への貢献に努めています。

### <2033年までの目標>

戸田工業グループで提供する商品、技術について、環境調和型評価シート（自社基準）により3段階評価（優：環境調和型、良：環境配慮型、可：標準）を定期的に行い、2033年までに100%優：環境調和型とします。



## ⑥環境情報の公開

(1)国際NGO：CDP気候変動質問書

2016年からCDP気候変動質問書へ回答し、環境情報を公開しています。

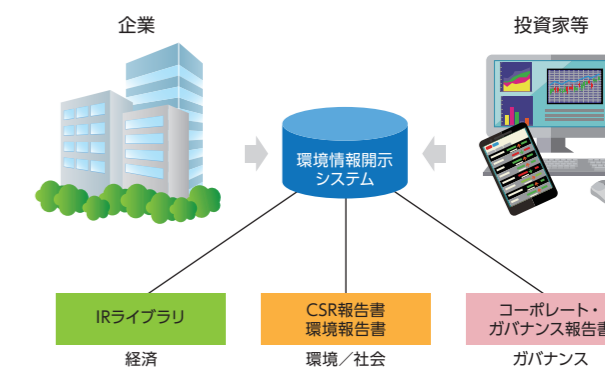
| 年度   | 回答日本企業数  | 戸田工業グループ |
|------|----------|----------|
| 2015 | 246/500社 | 未回答      |
| 2016 | 265/500社 | 回答       |
| 2017 | 283/500社 | 回答       |
| 2018 | 297/500社 | 回答       |



(2) 環境省：環境情報開示基盤整備事業への登録

ESG（環境、社会、ガバナンス）投資に対応し、環境情報開示システムにIRライブラリ、CSR報告書、環境報告書、コーポレート・ガバナンス報告書を登録しました。

「ESG対話プラットフォーム」を通して投資家等との会話を開始しました。



### 3) 職場の安全・衛生

戸田工業グループでは、グループ全体の労働安全・衛生活動に統一性を持たせる目的で、取組み体制を、以下のとおりとしています。

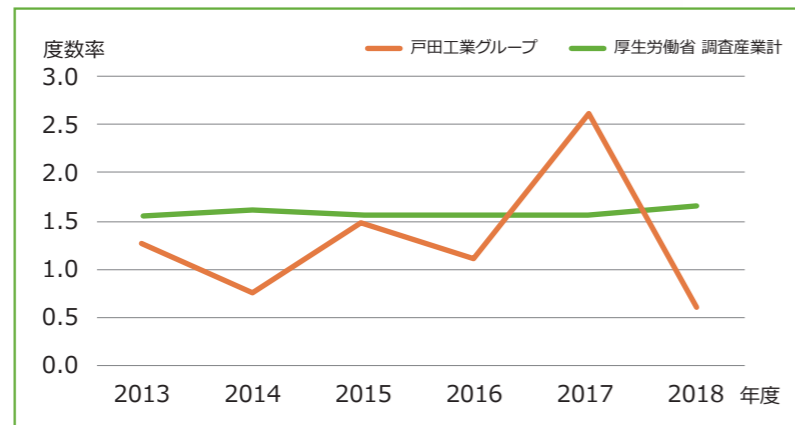
- ・中央総括安全委員会のもとに、各事業所の安全衛生委員会を運営する。
- ・モノづくり推進室と協働して、教育を通して人づくりを行う。

上記体制とすることでグループ全体に安全・衛生風土の育成を推進しています。

#### ①労働災害に関するデータ

2018年度の休業災害は、グループ全体で1件発生しました。CSR・環境安全部、モノづくり推進室、各事業所の安全衛生委員会と連携して、引き続き“労働災害の撲滅”を目標とした活動を展開してまいります。

戸田工業グループ 休業災害度数率の推移



※度数率：100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表すもの。

#### ②安全表彰

大竹事業所では、2018年度業務災害ゼロを達成したこと、およびゼロ災を目指した積年の活動内容が高く評価され、広島県労働基準協会より、優良事業場としてのご評価をいただきました。



#### ③安全活動

小野田事業所および大竹事業所では、毎年、全国安全週間、衛生週間を前に「安全大会」を開催しています。小野田事業所では宇部労働基準監督署、大竹事業所では廿日市労働基準監督署より講師をお招きして、災害の動向、災害の防止計画について従業員とともに傾聴させていただく場を設け安全意識の高揚を図り、また、前年度の災害発生状況を再認識し当年度の目標を見つめ直し、設定する場として活動を行っています。



小野田事業所安全大会

#### ④各種講習・セミナーの開催

戸田工業グループでは、“低圧電気取扱特別教育”、“KYT講習”、“保護具フィットネス講習”、“メンタルヘルスケア講習”、“粉じん障害防止特別教育”等、法的な特別講習に限らず、事業所毎に設定した重点テーマに焦点をあてた講習を随時実施することにより、グループ従業員の安全・衛生に関する正しい認識の普及に努めています。

#### ⑤安全道場での活動

2014年度より、戸田工業グループおよび協力会社の全従業員を対象として、安全道場を開催しています。2018年度までで全対象者の99%が受講しました。

この安全道場では、安全衛生の基本として“5S”、“KYT”を座学として講義しています。

さらに、「危険とは何か」「危険な状況への気付き」など、安全の大切さを“見て・触れて・考える”体感型安全教育を実施しています。体感装置は8種あり、中でも“飛来・落下に係わる危険”のコーナーでは、高所からの落下物の恐怖を身をもって体感でき、参加者から“普段何気なく装着しているヘルメットの役割、その必要性がよく理解できた”との感想が多く寄せられています。参加者自身が危険を疑似体験・体感することにより、職場に潜むリスクを顕在化し、危険感受性を高める気付きの場として運用しています。



安全道場での座学の様子



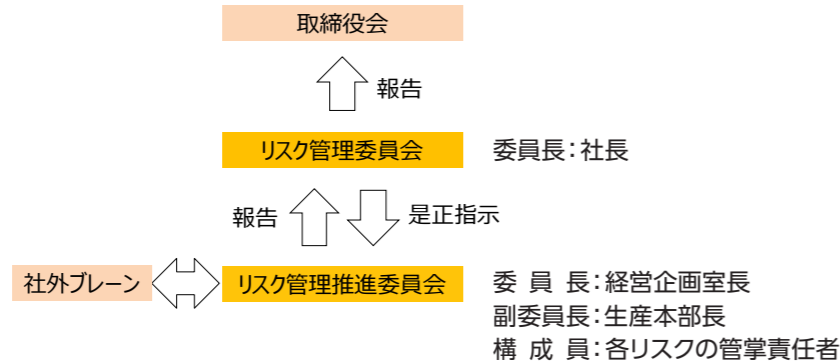
各種安全体感風景

## 4) リスク管理

### ① リスク管理

戸田工業グループでは、リスク管理規程に従い、以下のリスク管理体制を構築し、リスク管理の実効性を高める活動を進めています。2019年度からは、リスク管理委員会・リスク管理推進委員会を本格的に始動し、会社を取り巻くリスクについて経営層自らが議論し、現場にフィードバックする運用を進めています。

現状の目標は、以下のロードマップに従い、リスクを予防できる体制づくりやリスクへの対応訓練を日常の経営活動に乗せていくことです。経営層の理解と協力を得ながら、実効的なリスク管理を進めてまいります。



リスク管理体制図

|            | 18 | 2019  | 2020                                | 2021-22     |
|------------|----|---|-------------------------------------|-------------|
| 対応ステージ     |    | 推進委員会中心レベル  | 経営層レベル                              |             |
| 責任部署 & 事務局 |    | 体制構築<br>Kick off<br>責任部署毎<br>リスク洗い出し<br>& 重み付け<br>DBJ BCM対応<br>現状評価測定 | リスク管理委員会・推進委員会 マネジメント<br>BCM格付チャレンジ | リスク管理基盤体制確立 |
| 未然防止       |    |   | 基本計画策定 実行と標準化<br>災害BCM<br>モデル工程対応   | 水平展開        |
| リスク責任部署    |    | 顧客要求<br>事項整理  | 基本計画<br>策定<br>実行と標準化<br>訓練          | 訓練          |
| 早期復旧対応     |    | 顧客要求<br>事項整理  | 基本計画<br>策定<br>実行と標準化                | 対応訓練        |

リスク管理ロードマップ

### ② BCP/防災活動

#### (1) BCP

戸田工業グループでは、事業継続基本方針に基づき、国内外の事業所レベルでBCPを策定しております。

#### (2) 緊急時対応訓練

各事業所において、重油・灯油・LPG・水素ガスなどの可燃物を多量に取り扱うことから、火災や爆発のリスクや化学物質流出による汚染リスクがありますが、これらの潜在リスクを発現させないため、日常・定期点検を実施するとともに保安体制を整備しています。被災時に重大な環境影響を与える恐れのある設備に対して、設備を継続的に維持管理・被災対応するための対策として、事業所内で緊急時対応訓練を毎年実施しております。この訓練では、地震等による①「人的被害」②「火災発生」③「建物被害」を想定して、避難、救助、消防等の訓練を行っています。



戸田ピグメント 2019年1月22日  
硫酸漏洩時への対応訓練

## 5) 生物多様性への取組み

### ① 環境美化活動

戸田工業グループでは、各事業所近隣の河川や道路沿いの環境美化活動を行ったり、地方自治体主催の海岸・公園クリーンアップ行事に参加したりすることによって、生物多様性の保全に積極的に貢献しています。



大竹事業所に隣接した恵川の清掃



戸田ピグメント近隣県道側溝の泥上げ



山陽小野田市主催の海岸・公園クリーンアップ行事への参加



### ② 大竹市 川の生き物観察会への参加 (以下は参加者からのコメントです。)

地方自治体による環境保全活動の一環として、大竹市が実施している「大竹市 川の生き物観察会」(2018年7月14日)に参加しました。市内の河川に生息する水生昆虫や魚などの水生生物に触れ、名前や生態を学ぶことのできる観察会です。事前に専門家の方が採集した生き物を用いた分類作業も体験できます。参加者が、増水箇所でも流されたり、深みにはまり溺れたりしないようする安全対策や熱中症対策などのボランティア活動も行いました。

当日は大雨による増水のため、流れの緩やかな制限区域内での観察となりましたが、ひんやりと涼しい水辺で小さな魚やカエルを追いかけ、楽しいひと時を過ごしました。子供たちとともに、身近な河川の生物多様性を実感できる貴重な機会となっています(写真は、大竹市市民生活部環境整備課様よりご提供いただきました)。



大竹市立栗谷小学校近隣の小川での生き物採集と観察風景



## 1) 人権の尊重

戸田工業グループは、従業員一人ひとりの独創性と多様性を財産として、その能力の限りのない飛躍と活動を応援し、公正に評価します。そして従業員のゆとりと豊かさの充実に努め、ともに生活していくことを目指します。

### <基本方針>

戸田工業グループは、相互理解の前提となる基本的人権を常に尊重します。また、戸田工業グループは、人種、信条、性別、社会的身分、国籍、疾病、障害等による差別は行いません。

### <具体的行動規範>

#### (1) 一切の差別の排除

役員および従業員は、個人の基本的人権を尊重し、いかなる差別的言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等、人権を無視する行為をしてはならない。

#### (2) 個人のプライバシーの保護

役員および従業員は、事業活動上社内外の個人情報に接する場合には、その取扱いに当たって、個人のプライバシーが侵害されることのないよう細心の注意を払うとともに、適切に管理しなければならない。

#### (3) 不当な労働の排除

役員および従業員は、不当な労働を排除しなければならない。また、各国・地域の法令が定める雇用最低年齢に満たない児童を仕事につかせてはならない。役員および従業員は、戸田工業グループと同様の対応を販売店・協力会社にも求めなければならない。

### ① 制度の充実

「ハラスメント防止規程」、「個人情報の保護に関する規程」、「育児介護休業規程」、「私傷病による休務および職場復帰に関する規程」、「ストレスチェック制度実施規程」、「コンプライアンス推進規程」、「コンプライアンス相談窓口制度」などを制定し、グループ全体で人権の尊重に努めています。

#### 相談窓口制度

ハラスメントに関する相談・苦情に対して人事総務部に相談窓口を設け、ハラスメント防止規程に沿った適切な対応を行っています。

### ② 人権尊重に係る取組み

戸田工業グループのグローバル化およびダイバーシティへの取組みとして、戸田工業における外国籍従業員の雇用推進、海外子会社スタッフへの研修支援、および海外赴任者への教育等を行っています。2018年度の活動事例を紹介いたします。

#### (1) 外国籍学生の定期採用活動

2019年度定期採用者12名のうち、外国籍の方を1名採用いたしました(外国籍従業員総数7名)。日本で円滑に生活および仕事をさせていただくために、入社前に日本語学力アップのための通信教育等を実施しております。

#### (2) 海外子会社スタッフに対する研修支援

海外子会社の現地マネージャー(外国籍)のキャリアアップのために、2017年度から戸田工業では教育支援を開始しました。

#### (3) 海外赴任者への教育

海外子会社に赴任している日本人に対して、円滑な子会社経営のために各種研修(異文化ビジネスの基本等)を実施しています。

## 2) 社会や地域とのかかわり

### ① 理科出前授業・工場見学会

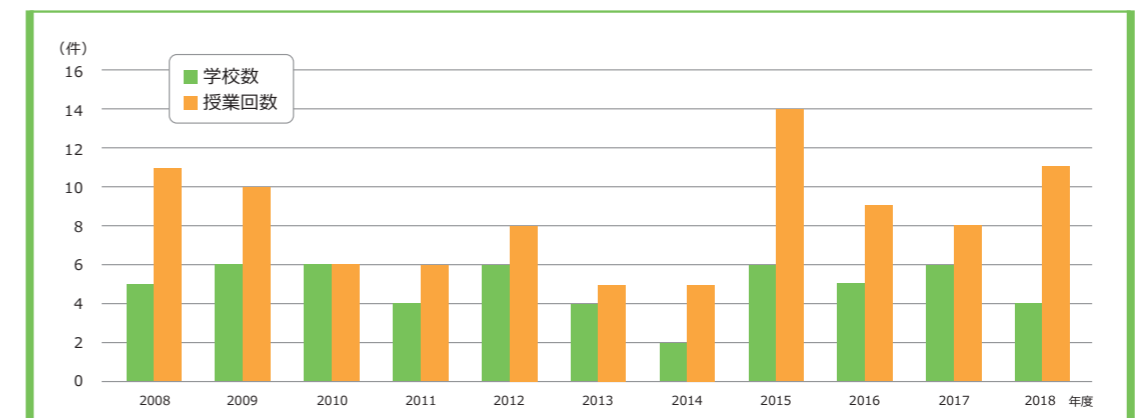
戸田工業では、2008年度から、広島県内の小中学生を対象とした理科出前授業や工場見学会を実施しています。理科出前授業においては、子どもたちは、素材や磁界の形・向きが違う永久磁石に触ったり、永久磁石、エナメル線コイルと乾電池を使った簡単手作りモーターを作ったりすることで、永久磁石や電磁石の働きを体験し、磁石を使った製品が身近な生活で役立っていることを学んでいます。広島県発明協会などが主催する小学生向けイベント「わくわくケミカルクラブ」の一環として行われた工場見学会(2018年8月4日)では、フェライト磁性粉やこれを用いたフェライトシートの製造工程などを見学してもらいました。こうした活動により、より多くの子どもたちが理科に興味を持ち、将来、日本の科学技術の担い手になってくれることを願っています(理科出前授業の写真は、一般社団法人広島県発明協会様よりご提供いただきました)。



理科出前授業・工場見学の様子



出前授業実施件数



② 広島県内高校生による科学研究発表会への参加

広島県教育委員会は、県内の高校生が授業や科学クラブなどで取り組んだ科学研究の成果発表を行う「広島県科学セミナー」を毎年開催しています。2018年度は、戸田工業を含む協賛企業6社も招かれ、広島市立大学で開催されました（2019年2月10日）。参加校数：14校、総生徒数：218名、発表数：67件（物理、化学、生物、地学、数学、情報の6分野）で、ポスターセッションによる活発な発表・討論が行われました。10件が優秀賞として表彰され、戸田工業も協賛企業として、1件に特別賞を授与しました。自然科学に興味を持ち、眼を輝かせて質問に答える生徒達の高い将来性が実感できる貴重なイベントです。戸田工業は、今後も積極的に参加いたします（写真は広島市立大学様よりご提供いただきました）。



ポスター発表および大学教授との討論の様子

③ ドナーバンク支援 — 『ドナーバンク支援自販機』導入と成果—

医学、医療が進歩する中、臓器不全治療の一つの選択肢として臓器移植があります。しかし、臓器提供数は伸び悩んでおり、移植医療への国民の理解は十分とは言えません。そこで移植医療への普及啓発、推進活動への寄付を目的として、2017年、大竹事業所サイトに『ドナーバンク支援自販機』を3台設置しました。この活動の結果、年間約20万円の寄付金が集まっております。このような継続的な成果に対し、2018年度、大竹事業所はひろしまドナーバンク様より感謝状を受けています。



④ エコキャップ運動

広島本社、大竹事業所、創造本部では、2018年度から、一般社団法人広島労働会館（ワークピア広島）様を經由して、エコキャップ運動を推進しています。ペットボトルキャップ約2kgの売却益で、1人分のポリオワクチンを寄付することができます。地道な活動ではありますが、十分に意義ある社会貢献と考え、今後も継続してまいります。



3) 研修制度

① 新入社員研修

教育制度の中でも新入社員研修には特に力を入れています。技術系・事務系関係なく、同じ研修を一緒に取り組んでいきます。

導入研修

- 生活のリズム、気持ちを学生から社会人へと切り換え、仕事人としての基本を学ぶための研修です。
- 禅寺研修（他社新入社員らとともに、気持ち、生活リズムの切り替え）
- ビジネス研修（マナーをはじめ、「心技一体」を実践できる「仕事人」の基本を修得）
- 社内研修（会社組織、製品についての講義や社内制度の学習、工場見学他）

現場研修(5月～8月の4ヶ月)

長期間にわたり職場体験をすることにより、社風、現場を肌で感じ、更には先輩社員らと直に交流を行う研修です。  
生産部門、研究開発部門、営業部門で、モノづくりや開発、営業活動の基礎を学んで、仕事を通じて実務知識を身に付けます。

正式配属決定(9月)

配属は、各人の希望や適性、社内のニーズを照らし合わせて決定します。その後、社内ジョブローテーションにより、様々な経験を積んでいきます。

② OJT研修

新入社員OJT制度の充実（育成計画、OJTリーダー研修の実施）、安全衛生・品質管理教育の実施、国内大学・研究機関への派遣等

③ OFF-JT研修

階層別研修、重点課題研修、職種別研修、メンタルヘルス研修、海外赴任前研修等

④ 自己啓発

通信教育援助制度の実施  
(各種コースの中から各人が自由に講座を選択。優秀点で卒業すれば、受講料免除。)



課長研修の様子



新入社員研修(禅寺研修)の様子

#### 4) 従業員インタビュー

企業の国際化が進んでいるといわれている現代、戸田工業グループも国際化が進んでいます。今回は、海外の子会社に出向している日本国籍の従業員と国内で勤務する外国籍の従業員の2名に、勤務の様子や休日の過ごし方などをインタビューしてきました。

戸田工業アジア (タイランド) Co., Ltd.

高橋 正樹さん

2016年10月からタイに赴任し、戸田工業アジア (タイランド) Co., Ltd. (TKAT) のDirector (いわゆる社長) に就いています。

TKATは、設立の準備から関わっていますが、タイ現地での会社設立や経営の経験やノウハウがない中での、拠点となる物件の検討や従業員の採用等の設立準備や設立後の事業の運営には、やりがいとともに、難しさや大変さを感じました。設立から約3年経ちますが、関連する部署のみなさんや現地社員その他TKATに関わる方のサポートもあり、TKATの事業は軌道に乗ってきています。

現地社員は、タイ国民の気質なのか、基本的に優しく、社員同士がサポートし合い、職場の雰囲気はとても良いです。ただ、文化や教育スタイルが異なるため、日本の企業の経営理念、方針や仕事の仕方を理解してもらうことが難しく、現在も現地社員に、どのように日本の企業の仕事の仕方を理解してもらうかを模索しています。

毎月1回の社内ミーティングや食事会等での交流を通じて、現地社員の考え方を理解するよう努めています。また、TKATのあるロジャナ工業団地には、ロジャナ会という日本企業の交流会があり、そこで開催されるセミナーや会員同士の情報交換を通じて、現地での経営や社員への教育等について学んでいます。

プライベートでは、週末にテニスを楽しんだり、東南アジア各国へ旅行に行ったりしています。ただ、永らくタイにいと、日本のおいしい牛肉が恋しくなります。

TKATの運営は模索しながら行うことも多いですが、今後もみなさんの協力をいただきながら、TKATを盛り上げていくべく、現地社員とともに、業務に邁進していきたいと思っています。



Fine Material事業本部 事業推進部

劉婷婷さん

私が入社した2012年から2013年までは創造本部にて研究の仕事を担当しました。当時は燃料電池用Ni触媒の基礎的な合成実験からスタートし、ラボ機まで商品の開発を行っていました。当時、新入社員の私が日本の大学・大学院で学んでいた応用化学の知識を会社に活用できたことが嬉しく感じました。2014年に創造本部から東京OFFICEに異動し、今現在もリチウムイオン電池用材料の販売を担当しています。近年、電気自動車用電池の製造は中国と台湾メーカーが多いため、中国語が非常に役に立っています。スムーズにお客様と交流するのももちろんですが、中国独特のビジネススタイルを日本人の同僚に伝え、納得して頂いた上で商談することにより成功率が高くなるのが自負しています。また、化学専門用語と評価結果について理解しやすいため、技術担当チームに正確な情報を共有できます。研究職ではなくても自分が会社で活躍させて頂けるのが有難いと思います。



東京OFFICEは毎年新入社員が入っているため、事務所はいつも活気がいっぱいです。皆さんは不定期的に部活をやっています。例えば、バドミントン、釣り、登山とラフティングなどです。去年は多摩川でラフティングをやっていた涼しい川の中に皆さんの笑いが止まりませんでした。

これからも同僚の皆さんに支えて頂きながら仕事に頑張りたいと思います。

#### 5) クラブ活動

戸田工業では、福利厚生の一環として、社員同士の親睦とつながり、心と体の健康づくりを主な目的に、クラブ活動の活動費の一部を援助しています。登録されているクラブには、野球、テニスなどの運動を目的とするものが多いですが、芸術的な活動を目的とするものもあります。今回は、そのうちのひとつ、主に大竹事業所サイトの従業員を中心とした**陶芸研究会**を紹介します。作品を通じて、自分を表現するだけでなく、自分の作品を毎日の生活で使用し、楽しむことができる魅力的なクラブです。

### 陶芸研究会

数少ない文化系クラブのひとつとして、近隣の窯元での作陶を中心に活動しています。プロの陶芸家から直接学ぶことができ、全くの初心者から経験者まで楽しく作陶を行っています。自分が作った器でお酒を飲むのを楽しみにしている人、ろくろ技術を深める人、釉薬に興味をもって勉強する人など様々です(我が社の弁柄は陶芸でも有名ですよ!!)。みなさんも自分好みの器を作ってみませんか?ご参加お待ちしております。





## 6) 次世代育成支援・女性活躍推進活動

戸田工業では、次世代育成支援対策推進法および女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の規定に基づき、次世代育成支援および女性活躍推進に関して、次のような行動計画を策定し、計画に沿った活動を進めております。

### ① 次世代育成支援行動計画 (2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間)

|   | 目 標  | 目標達成のための対策   | 2018年度の実績   |
|---|--|--|---|
| 1 | 計画期間中に、 <b>職場における育児に関する意識</b> を高め、育児を行う従業員に対し、理解と協力が得られる風土・体制とする。  | 育児に関する諸制度について、イントラネット等を通じ定期的に周知を図るとともに、管理職研修等においても必要な教育を継続実施する。      | 職場における女性比率を高めるべく定期採用・キャリア採用活動を積極的に実施した結果、2018年度末時点で14.5%に拡大(2017年度末13.3%)。  |
| 2 | 計画期間中に、育児休業の取得状況を以下のとおりとする。また <b>勤務時間短縮の適用期間を広げるとともに、勤務時間短縮、繰り上げ、繰り下げ措置の取得を奨励する。</b><br>※男性:取得者1人以上にする。<br>※女性:取得率100%、復帰率100%を維持する。 | ・全従業員に、仕事と家庭の両立に関し啓蒙を継続して行う。<br>・育児休業法、育児休業規程を周知し、特に男性の利用を促す。        | 2017年4月1日付改定の育児介護休業規程で、育児のために勤務時間の短縮または始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ措置できる期間を中学校就学の始期に達するまでの期間に拡大。女性育児休業取得率100%および復帰率100%を堅持。      |
| 3 | 計画期間中に、 <b>社員の総実労働時間を短縮する</b> (所定外労働時間の削減、年次有給休暇消化促進、年次有給休暇の時間単位利用の適用拡大等)。   | 年次有給休暇の使用実績70%以上の維持および取得促進のための施策を検討する。                               | ・年間所定外労働時間の削減(2017年度対比平均一人あたり8.4時間減)<br>・ノー残業デーの実施(各拠点)<br>・年次有給休暇の計画的付与制度の実施(創造本部)<br>・レンタルオフィスを用いた業務効率化推進(東京OFFICE) |
| 4 | <b>子どもたちに、理科や化学のおもしろさを実感してもらう。</b>   | ・小・中・高校生対象のイベントへの出展を通じて、理科や化学への理解を促す。<br>・小学生を対象に学校教育(出張授業等)への協力を行う。 | ・理科・化学イベント出展件数: 2件<br>・理科出前授業実施校数(回数): 4校(11回)  |

### ② 女性活躍推進行動計画 (2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間)

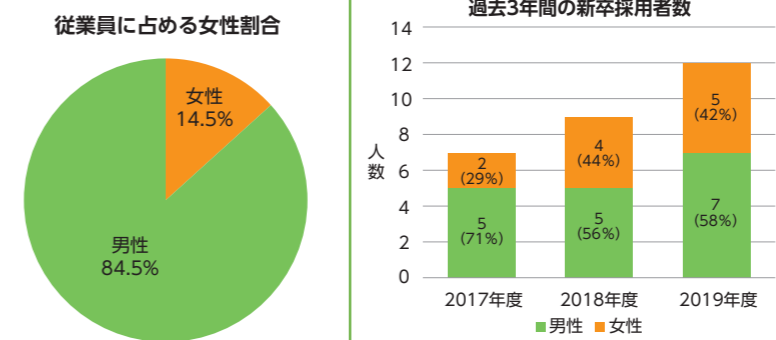
女性社員の比率が低く、女性応募者が少ないという当社の課題に対して計画期間中に、新卒採用者に占める女性比率を30%以上とするという目標を掲げ、以下の対策を進めています。

#### 【目標達成のための対策】

採用選考基準やその運用の見直しを行うとともに、就業後の仕事と家庭の両立支援策の拡充を行い、育児休業の取得率等の情報を開示することによって、応募者数を増加させ、新卒採用者に占める女性比率の増加を目指す。

【実績】 データはいずれも2019年3月31日現在/2018年度実績 (新卒採用者数は2019年度実績を含む)

#### (1) 採用



#### (2) 継続就業・働き方改革

|          | 男性    | 女性    | 平均    |
|----------|-------|-------|-------|
| 平均継続勤務年数 | 23.7年 | 12.1年 | 22.2年 |
| 平均年齢     | 49.2歳 | 38.2歳 | 48.0歳 |

|                      |             |
|----------------------|-------------|
| 月平均所定外労働時間           | 10.5時間      |
| 年次有給休暇平均取得率および平均取得日数 | 65.7%/12.7日 |

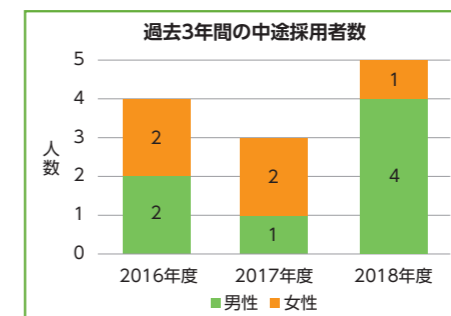
|          | 男性 | 女性   |
|----------|----|------|
| 育児休業対象者数 | 6名 | 5名   |
| 取得者数     | 0名 | 5名   |
| 取得率      | 0% | 100% |

※女性の取得率は過去10年以上、100%を継続。

#### (3) 評価・登用(2019年3月31日現在)

|                     |       |
|---------------------|-------|
| 係長級にある者に占める女性労働者の割合 | 10.8% |
| 管理職に占める女性労働者の割合     | 2.4%  |
| 役員に占める女性の割合         | 0%    |

#### (4) 再チャレンジ(多様なキャリアコース)





<会社データ>

社 名：戸田工業株式会社 TODA KOGYO CORP.  
 本店所在地：広島市南区京橋町1番23号  
 創 業：1823(文政6)年  
 設 立：1933(昭和8)年11月30日  
 資 本 金：74億77百万円  
 従 業 員 数：352名(単体)、1,206名(連結)

※2019年3月31日時点



※BTBM=BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社



経営理念とCSR方針  
 事業内容と歴史  
 身近な製品群  
 いろいろと特集①  
 特集②  
 経営  
 業績と経営計画  
 品質  
 環境安全  
 社会  
 組織図・事業拠点



©2019 S. FC

戸田工業株式会社は、  
サンフレッチェ広島を  
応援しています!



戸田工業は、サンフレッチェ広島を応援します。

素材のチカラを未来のタカラに

**戸田工業**

ICHIKAN 40 MF 川辺駿



**SANFRECCHE**  
HIROSHIMA FC



©1992 S.F.C